

百年を結ぶ

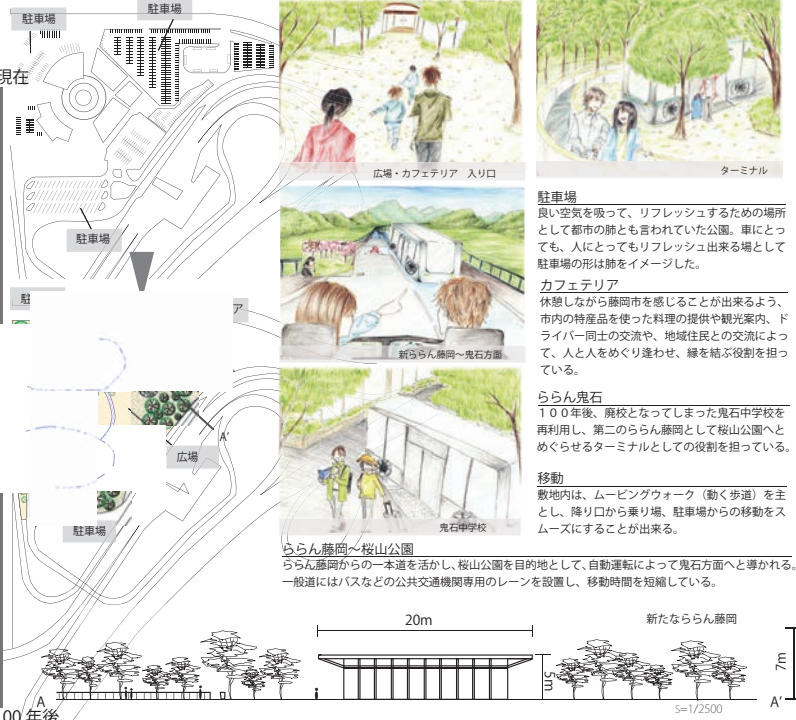
CONCEPT

「景観十年、風景百年、風土千年」 景観は十年、風景は百年、風土は千年という年月をかけた記憶の堆積によって成り立つ。
(現在の藤岡)
現在、藤岡市の人口減少により、道の駅である、ららん藤岡と藤岡市の観光地である桜山公園の衰退が問題となっている。藤岡市では、この地に訪れる交流人口や、この地に多様な形で関わる関係人口を増やすことで、藤岡市を継承・発展させる仕組みを取り入れることが求められている。
(うつろう風景と変わらない風景)
うつろう風景とは時代によって変わる観光地などのことを指し、変わらない風景とは古墳などの、この地に今でもあり続けるものを指す。

(緑・ゆかり・)
古墳には、この地にあり続け人々との相互関係によるつながりがあり、世界遺産(絹道産群)高山社には人々を集め、広めるという記憶がある。緑とは関わりやつながりがあることを意味し、古墳や絹道産群と藤岡市は何らかの形で結ばれている緑がある。そこで今までこの地に文化や遺産、歴史をつないできた緑をコンセプトとし、ららん藤岡と桜山公園をつなぐことで、藤岡市を百年後まで継承し、発展させるデザインを提案する。

◆ららん藤岡

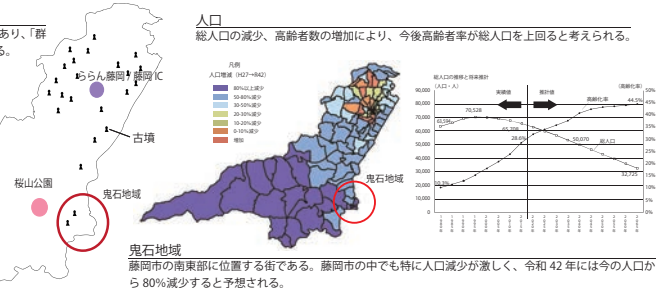
ららん藤岡
100年後、高速道路は、車での自動運転が主な移動方法となり、バスなどの公共交通機関や、運搬業、緊急車両専用のレーンが設置され、物流などの点から発展が見込まれる。桜山公園及び、藤岡市内の観光地をめぐるために、公共交通機関の乗り換え、電気自動車の充電での利用、県外・県内、市外・市内の様々な人と人々をめくり逢わせるカフェテリア、自然に囲まれた空間で長時間の移動で疲れた心身を癒やすことを目的としている。



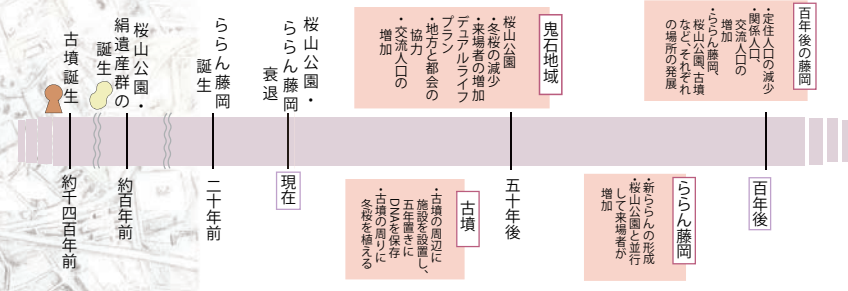
現況分析

藤岡市
藤岡市は群馬県西部に位置し、温暖で緑豊かな田園風景が広がる都市である。また、藤岡にあり、「群馬県の玄関口」と呼ばれている。ランの栽培が盛んであり、全国的にも数少ない産地となっている。

藤岡市の歴史
藤岡市には多くの古墳が存在し、それらは今から約千年前からこの地にあり続けている。古墳が現在まで存在している理由は、日本人の潜在意識による自然崇拝と、そこから生じる地域との守り合いの関係があげられる。天災の多い日本では古くから自然への崇拝が行われている。そのため、藤岡市の古墳周辺に住んだ人々は無意識に古墳を守り、それを受けた古墳もまた人々を守っているという関係が結ばれていると言える。
さらに、今から約百年前から残っている絹道産群の高山社によって生み出された養蚕法によって、国外からもたくさんの人が集まっていた。そして優れた人材は、全国へ派遣され、発展していった歴史と記憶がこの地に存在している。



人と風景の時間軸



◆桜山公園

冬桜の保全
現在の桜山公園は冬桜が被害虫により、衰退傾向であるため、冬桜が生息する環境に整えていない。そのため、桜山公園より長い間歴史が続いてきた場所である市内の古墳が冬桜の最適な保管場所であると考えた。方法として2つの案を下記に提案する。そして100年後までに、天然記念物に指定された当時の桜山公園であった、花とモミジを主とした公園をベースに植栽環境を整えていく。
冬桜の保全方法
1つ目は、種を増やす方法である。冬桜を増やし、100年後再び桜山の植栽環境が整ったときの株確保と町に桜山を広げることを目指す。
2つ目は、冬桜のDNAを冷凍し、半永久保存する方法であり、完全保存ではないため5年おきに採取することとする。これは、株を一切傷つけずに遺伝に関する情報記録の伝達と、生命活動の維持につながる重要な役割を目的としている。



◆鬼石地域

鬼石デュアルライフプラン
デュアルライフとは都市と地方を行き来するライフスタイルであり、このプランは、鬼石再復興と都市部に住まう人々に憩いとやすらぎを提供するものである。地方と都市が連携することにより、地方の交流・関係人口の増加が見込めるため、この関係は、相互利益に繋がるものである。
また、滞在することで利用者が自然を身近に感じ、休養をより充実したものにする事ができる。さらに、風土に触れ、その土地に興味を持ってもらい、地元住民と移住者で風土をつくりあげ、その土地をより良いものにする事もできる。

